

屋内運動場は、本県、全国平均ともに、鉄骨の比率が最も高い。特に、本県の場合は、99.6%と極めて高く、ほぼ完全な耐火構造であり、構造上の防火体制は、確立されている。

宿舎は、鉄筋比率82.7%、鉄骨比率 1.0%となり、耐火構造率は、校舎及び屋内運動場より低く、また全国平均よりも低い。このため、今後、増改築等の事業を実施するに当たっては、耐火構造化を図る必要がある。

盲、聾、養護学校建物の必要面積に対する不足面積の比率をみると、図2-5-16のとおり宿舎は、盲、聾、養護学校ともに、不足面積が全くなく、それぞれ必要面積を充足している。

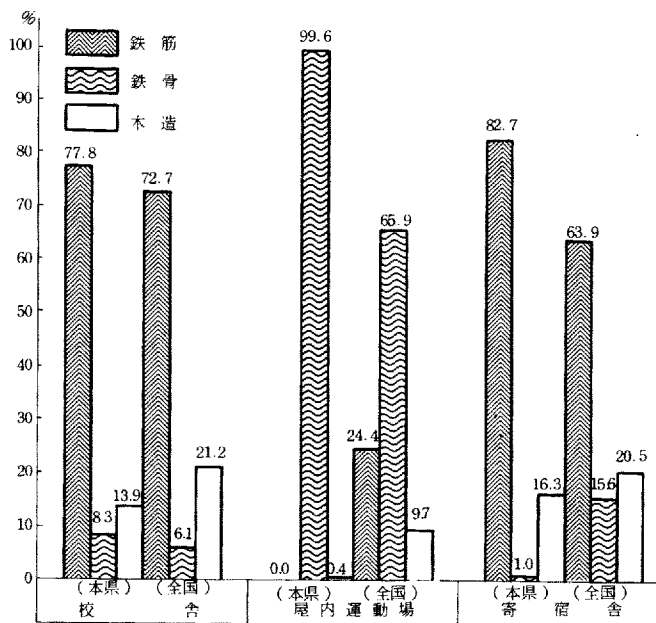
聾学校は、校舎、屋内運動場の不足面積比率も極めて低く、ほぼ必要面積を充足している。

盲学校には、屋内運動場がなく、また校舎の不足面積比率も37.1%と比較的高く、まだ未整備の状況にある。

養護学校の校舎及び屋内運動場の不足面積比率は、それぞれ41.5%、53.6%と高く、十分な整備状況にあるとはいえない。

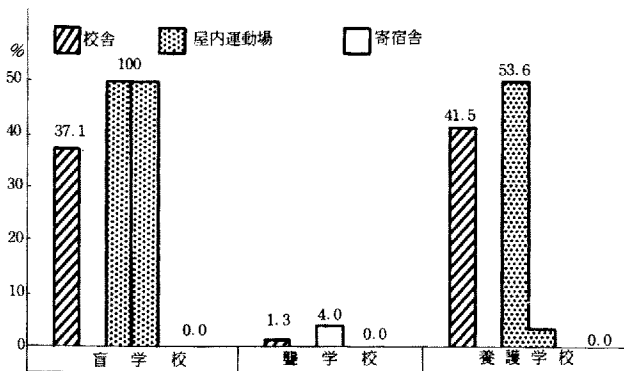
盲、聾、養護学校建物の危険面積保有状況をみると、表2-5-16のとおり、盲、聾、養護学校の各施設ともに、危険面積が全くなく、すべてが健全建物

図2-5-15 盲、聾学校建物の構造別保有率



2. 構造別比率 = (構造別保有面積) ÷ (保有面積) × 100

図2-5-16 盲、聾、養護学校建物の不足面積比率



注：1. 「公立学校建物の実態調査報告」(昭51) による。

2. 比率 = (不足面積) ÷ (必要面積) × 100

表2-5-16 盲、聾、養護学校建物の危険面積保有状況

(単位：㎡)

区分	保有面積			危険面積		
	校舎	屋内運動場	寄宿舎	校舎	屋内運動場	寄宿舎
盲学校	4,104	—	1,691	—	—	—
聾学校	10,718	2,910	2,186	—	—	—
養護学校	14,553	2,316	2,659	—	—	—

注：「公立学校建物の実態調査報告」(昭51) による。